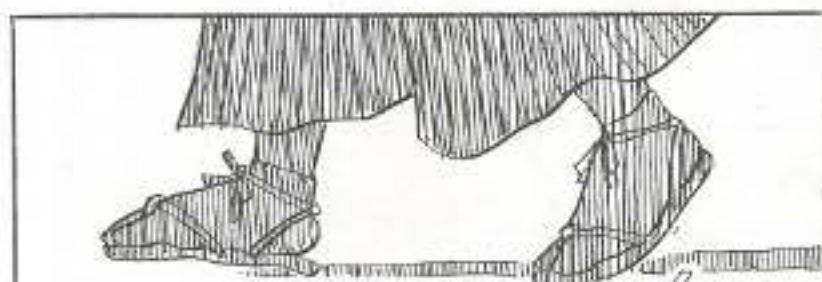
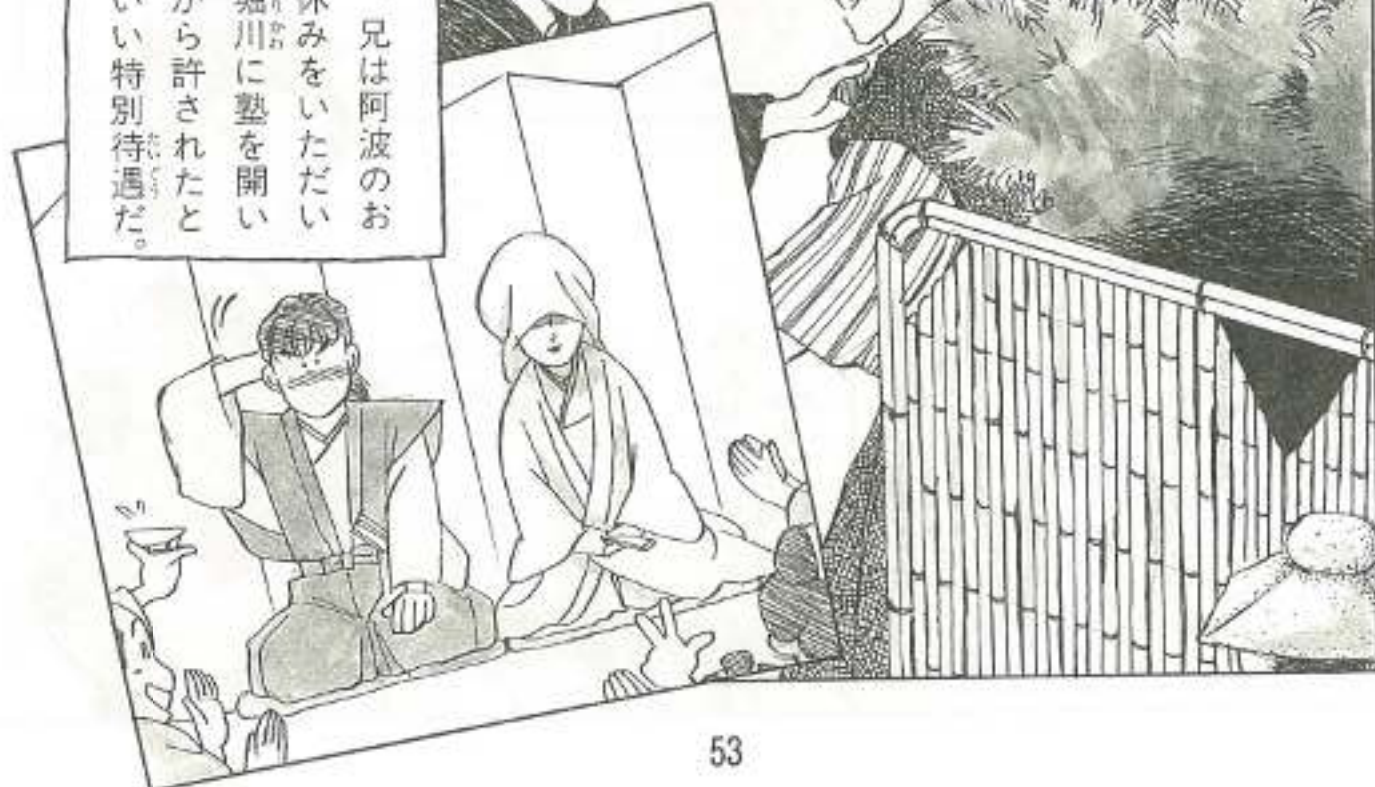




明和六（一七六九）年、高松藩主松平頼恭様が亡くなられた。——兄はこの年、三月三河町に引越し私宅をもつた。私はお安と結婚することになった。



二年後に、兄は阿波のお殿様にお休みをいただき、京都堀川に塾を開いた。兄だから許されたといってもいい特別待遇だ。





兄の堀川の塾にはたちまち塾生が集まった。儒学のことはよくわからないけど、兄はそれほどりっぱな学者として知られるようになっていったってこと。同じ頃、江戸で広く名を知られるようになった人が、もうひとり。

老中、田沼意次様だ。それは、あんまり良くない評判だ。田沼様は出世のためにはたくさんのお金を使ったとか。



このところ、日本のあちこちで災害がつづいている。江戸で大火があり、兄の江戸の自宅も焼けた。八月には讃岐も大雨と洪水で大変だったのだ。

少しでも世の中が安らかになるようにと、年号が「安永」と改められた。この年、兄は小浜藩士藤田様の次女、お順様と結婚。私が兄の食生活を心配する必要はなくなったわけだ。



安永二（一七七三）年は、その年号の名と似ても似つかず疫病が全国に流行し、十九万人もの民百姓が命をおとした。讃岐では高松や志度で大火事があった。年のくれに、本家の剣岳おじさまが亡くなった。



この年の二月に私と安に次男・允升（碧海）が（長男・栄蔵は幼くして亡くした）四年の正月には三男・允中が生まれる。



しかし、まったく生命というものはたくましいものだ。多くの生命が消えてゆく中で、また生まれてくる生命がある。

このあと、私と安の間に生まれた子供達は七人とも皆、兄の養子となって京都または江戸で兄の教育をうけて育つことになるのだけだ。



安永三（一七七四）年の春、兄は撰津・播磨へ足をむけた。その旅の間に自分の教育方針を見つけたんだといった。



この山の道がたいへんなにぎわいだね

この人達全部吉峰大師像のご開帳を見るんだとすると

スワ スワ スワ スワ

急いだ方がいいね 勘感さ…

いえね、先生のおともなんですよ。



わん

お兄さん おむすび どう？ あつ

ありがとうございます

私達先を急ぎますからつ行こう勘感さん

いーえ ひとり旅なのつ

ほほほ

道中 気をつけてくださいな

皆郷から出て旅をしてきたから人恋しいのだろうかなあ

スタ スタ スク

勘感…

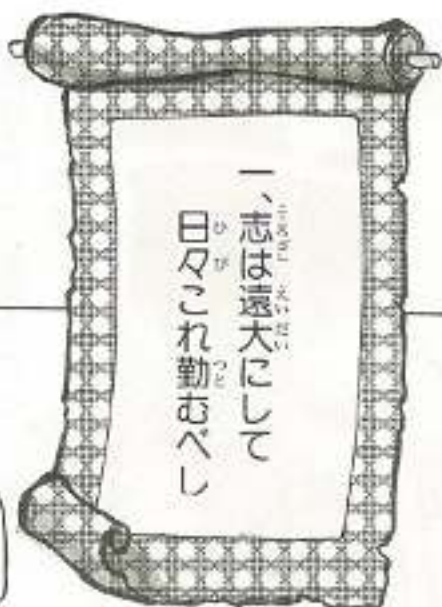


勘蔵さん

同じ一歩でもちよつと  
立ち止まるのと止まら  
ないのじゃこんなに差が  
つくものかなあ

これを学問に  
おきかえる一歩を  
一日と考えると一日  
勉強をさぼつただけでも  
後ですごい差になるつ  
てわけだゾ

THE WALKER



一、志は遠大にして  
日々これ勤むべし

しかし

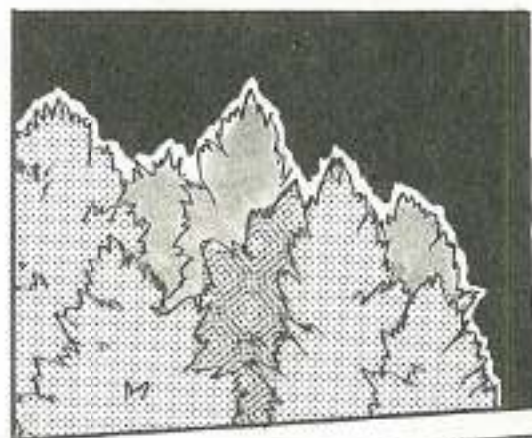
これでは  
日が暮れてしまふよ

勘蔵さん



どんなに遠い場所でも  
一歩一歩なまけず歩いて  
いけば必らず目的地に  
たどりつくものね

この後、箕尾の  
滝にむかう



西国第二十三番札所  
勝尾寺の大師像を拝  
す

でもねえ先生  
道を歩くのと勉強を  
するのとじゃ  
わけがちがい  
ますからねえ

そこが  
おづかしい  
ところなん…だ  
よ…

あれ





分れ道だよ  
勘藏さん  
右は広くて平坦だけど  
山に入るし

といつて左は  
どんどん谷に入つて  
いつとともまともな  
道には見えないし

誰か人が来る  
のをまつて  
きいてみよう



**お** あの人  
若い人に  
きいてみよう

すみませーんっ  
箕尾の滝へは  
どつちの道でしょう

あうっ  
わても箕尾へ  
行くんやう

あの人  
まよわず  
右へ行きます  
よ先生

きつと  
道をしつてるんだ  
ついて行つてみよう



いやあわても  
ここは始めてな  
もんでえ



こつちで  
よろしいのですか

「アキ」



はあ

ひり

は

ひり

はあ

ほんとう



# ポローン



登りたいけど  
昨日が

すこかったし…  
勘藏さんつかれて  
るだろうし…

ほ…

…

ポソッ

…登ってみま  
すか？先生



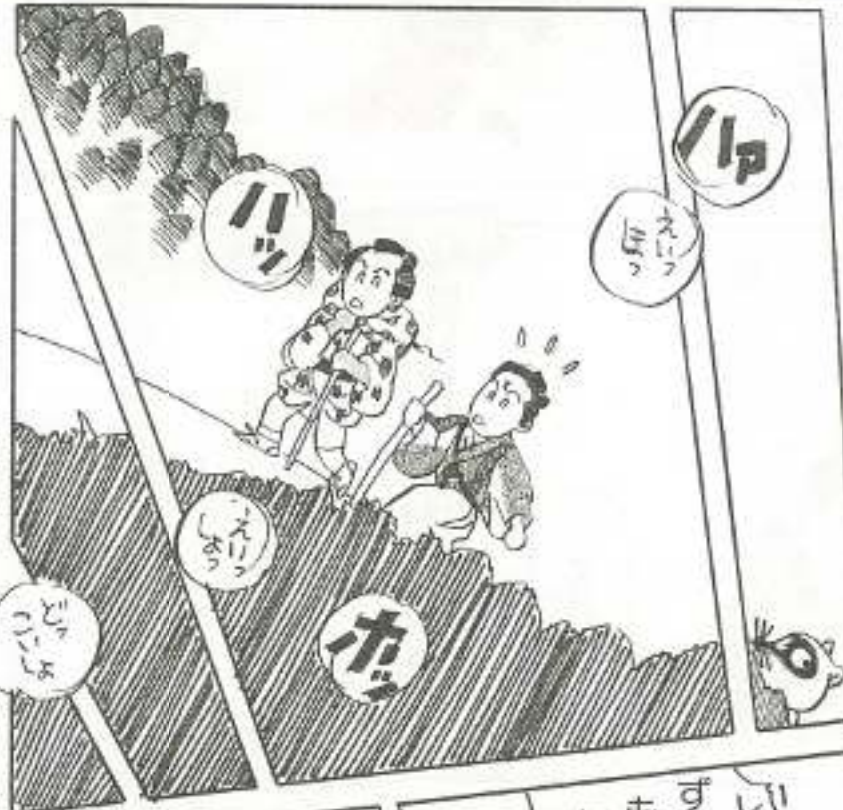
わつわたし  
でしたら…

元気ですし…  
まだいつ来れるか  
わからないし

今日はお天気  
もいいし登つて  
おきましよう

それ  
に

かんぞう  
さん



ハッ

えいっ  
ほっ

ハッ

えいっ  
ほっ

ホッ

どい  
ち



ひと休み  
しましようか

いやあ…  
すいぶん登つたね  
もう頂上に来た  
気分だつ

ほっ

フッ



…かつ  
勘藏さんつ  
まだ…登る  
の…ですかあ

ハッ

ハッ

ハッ





